



さっぽろ

郵便振替02710-3-5770 あごられ幌

NO 193

あごられ幌連絡先 今月通信担当

細田(011-644-277)

T

今日の内容

5月例会報告	はじめまして	... 5
3/1	... 1.2	今、原発を止めるために
3/2	... 3	女が生きること ... 6.7
SURVIVAL	... 4	情報 ... 8

1995. 7. 1. 発行

通信費請求料 1,940円(年間)

5月

いい男と言語遊び第一弾!

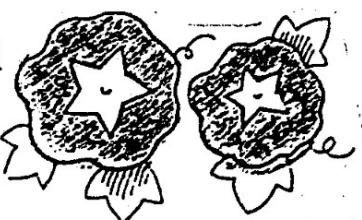
売買春を考える 報告

最近、フェミニズムのこと、女性差別、女と男の関係のことを自分の問題として考えてみたいといふ男性達がまわりに増えてきたので、是非そういう男性を囲んで例会を持とうということになった。

それで第一回目として5月5日、売買春問題に関する持ち、ECPAT(アジア総光子を買春根絶国際キャンペーン)英文ニュースレターを日本語訳し、発行している中山治光さんをゲストに迎えて例会を持った。一品持寄りで食べながら、飲みながらのリラックスした中の話だ、ため、テーマに沿ってきっちり統一して話し合いの形にはならなかつたが、売買春や性をめぐっていろいろな角度から話し合えたのではないかと思う。危な例会設定だ、ため参加者は男2、女4名と少なかったが、気楽に話せる雰囲気で、こう話をするには丁度よい人数だったと思う。ただ次回からは一ヶ月前には決定し、必ず通信に日程を載せられるようにしようと話し合った。

中山さんはその当時としてはあまり深く考えずに買春してしまい、後にその事の意味の大きさに気付き、激しく自分を問い直した。それが今の活動の原点になっていると言っていたが、なぜそう思いいたるようになつたのか。その辺のこと

を詳しく聞いてみた。「その後一緒に暮らしあじめた女性の存在が大きかった。男として当たり前だと思つてきつこつと、彼女との暮らし、関係の中で、いつも搔さぶられることがあった」とのお話だった。



セックスは取引の材料？

話の中でTV番組“恋のかり騒ぎ”のことになった。その中で若い女性が、デート時、男の子にバックを持たせる理由として「サービスしてあげてる（セックスしてあげてる）のだから、せめてバツツぐらい持ってもらわなくては……」と発言していたという。このことはセックスは高く売れるもの（実際は売らないでも）、あるいは取引の材料料にならざる考え方を裏付けている。女の側のこういう思いと、一方の「男の性欲は強くて、我慢できないものである。それを得るためにお金等を使うのは当然」という男の側の思い。この双方の思いの延長線上に売買春はある。一見当たり前にみえる女と男の関係の中にいざいざ考えなくてはいけないことが含まれているのではないか……。



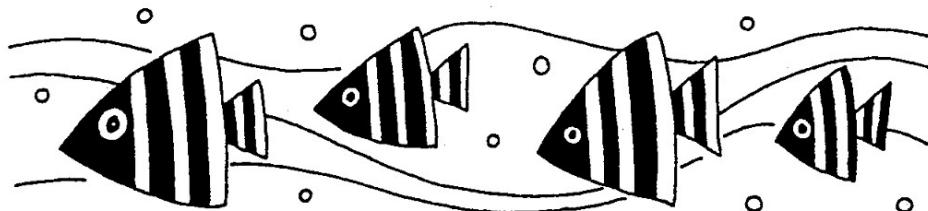
男性は変りつつあるのか？

男性参加者のOさんは後輩から「コンドームをつけていても、もし失敗して相手を妊娠させてしまったらどうしようかと思うとなかなか集中できなくて、最後までいけない」という相談をうけ、そのことにについていざいざ話し合ったことがあるという。女性は友人同士、比較的まじめに恋愛問題や性のことを相談したり、話し合ったりする場合が多いと思うが、男性でもそういうことがあると聞いて、皆結構驚いていた。男性同士の性の話といえば、自慢話とかワイ談の類ばかりだと思っていたので。

「男性も自然体でこういう話が出来るようになっていいのなら、すごいこと。男性も少しづつ変りつつあるということか？」「男らしさとか男はこうあるべきものという枠組から自由にならないとなかなか変ってはいかないだろ。肩の力を抜いて、こういうことを気楽に話し合うところからはじめよしかない。」

まず「そこからだ」等々の意見が出ていた。

話はつきなかつたが、「やつぱりいい男と話をすると元気が出る！ こうやってザ・クバランに話せるような場をこれからもつくりていきたい」ということで会を終えた。（細田詩記）



へい男と話そう 売春を考える

中山さんから
手紙が来た

「4時から2時半まで」後日譚

中山 治光

中山は、「なんで買春をしたか」という問い合わせ自分にしてきた。今回の話し合いは「どうして買春をやめたか」に考え方の方向を向ける機会を作つてもらった。収穫だった。

ある女（ひと）と出会い、つきあい、いつしょに暮らし、はじめて女と男の事を考えるようになった。

いま思い出すのは、ある時「おれは男だからはだかが見たい」と言った時の彼女のこたえ「なんで男だからなのか」だ。男であることが理由になるなんの根拠もなくしどろもどろしたこと、女に言われたことに対する男の意地で反発したこと思い出される。

家事労働。籍。2人の間のコミュニケーションなどなど、いくつもいくつも2人の前に出てきた。その中で男と女の関係のひとつの象徴として「買売春」があることに気づきはじめていった。

自分を問うといつても、その時はまだ意識は“売春”の方に向いていたのかもしれない。女のひとがどんな気持ちで売春しているのかを通じて、自分の姿を見ていたと思う。“買春”に出会ったときはショックをうけた。このことばで自分はかわった。

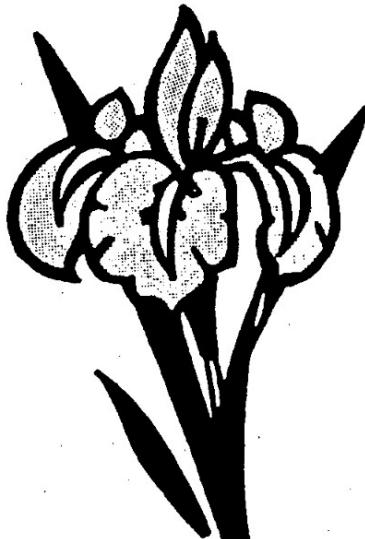
今も、新しく知ったことと今までひきずつてきたことの間には、まだスッキリしない面はある。でも、何もできない自分を怨み、うちにこもることなく、少しでもそういうはなしのできる人や場所を見つける努力をしている。ひとりではない。

○ ヴィーゲラン展（札幌）の帰り、人と人がふれあうことが話題になった。菊之進が「男の人からふれるとセクシュアルハラスメント的な感じになるから、女人から手をにぎってくれる関係だといいね」と話した。おれは『うーん、そうだね』と思ったとたん、きみよさんが「女性のほうからふれると、それ以上のことを望んでいないのに、望んでいると思われるのがしんどい」とこたえた。

身におぼえがあることなので内心ギクリとしながら「そうだね」とおれは声に出した。

なんだ。うん。このへんなんだ。

1995.6.12 <了>



《 SURVIVAL 》

「娼婦」に 憧れていたことがある
それは「殉教者」と同義語だったから

苦痛と屈辱の中に 身を 沈める
慣れ親しんだ 子宮の 血の海
逃れたいのに 逃れられない
見知らぬ「自由」は あまりにも 不安

いつしか 他の世界が あることも
逃れる可能性が あることも

忘れてしまう

—— そこから 逃れようとする意志
逃れたいと思う感情さえも

生き延びるために

「希望を 捨てること」 が 必要だった

ここは 本当に「自由の地」なのだろうか
私は 本当に 生き残れたのだろうか

再び暗い詩で申し訳ありません。前回の詩のときに「無理矢理明るいオチをつけようとしない方がいいんじゃない？」と言われたことが残っていて、こんなものになりました。解説はあまりつけたくないんだけど（イメージが限定されてしまうから）、これを書きながら連想していく事柄はいくつかあります。

夫からの暴力で「なぜ離婚しないの？」と人から言わることが辛かった」という体験者の発言——その状況から脱出する気力すら無くしてしまったものなのか…と印象に残っていました。それからアウシュビツツの強制収容所の話、子供への虐待（加えて「主婦的」状況、親との関係、さまざまな差別的状況、等々）。

特に強制収容所の話は、私はほとんど読んだことがなくて、ここで思い出しているのは、朝日選書の「アウシュビツツは終わらない～あーリア人皆の聲（ブリーモ・レーヴィ著）」という本なのだけど、収容所での残酷行為の数々よりも、そういう状況にあかれた人間の精神に重点が置かれていることが私には新鮮でした。

《なぜならラーゲルでは希望を持つ習慣や、理性への信頼感が失われてしまうからだ。ラーゲルでは考えることは役に立たない。ものごとは大体予期できない形で起こるからだ。それに危険もある。苦痛の源である感性を生かしておくことになるからだ。だが苦痛がある限界を越えると、何か思慮深い自然の法則が働いて、感性を鈍くしてくれる。（214ページ）》 これを含めたいくつかの考察が、「強制収容所」を、私にとってずっと身近なものに感じさせてくれました（この本自体は、理屈だけでなく“具体的な生活描写”がある本ですヨ）。それは「強制収容所」という特異な場所で起こる“私たちには縁のない状況”ではないのだと。——もう詩の解説じゃないですね。いつか機会があれば、このことについて、また触れてみたいと思います。

梅



女子学生の就職は今氷河期と言われている。土砂降りならいつかは晴れることも期待できるけれど、いつ融けるとも知れない氷漬けなんて夢も希望もない。こんな超買い手市場になるなんてバブルがはじけるまで想像もできなかった。4人の子供を抱えながら働くとしても求人自体なかった。「女は若いほど高く評価され、後は評価が目減りするだけなのだろうか。私が今まで一生懸命やってきた仕事って何の価値もないのだろうか。要するに新卒の女の子の方が経済的に価値があるということなんだろうか。」そんな筈はないと思いつつ、男の30代後半とはなんて大きなギャップがあるのだろうと溜め息が出た。同期の男の子たちは今や中堅クラス。働き盛り、まさに油が乗り切った“旬”の時期。なのに何で私は労働力として扱われないのだろうか。女性なら共感してくれるだろうと思ってこの話をしても「女はみんなそうなんだよ」「世の中ってそんなもんなんだよ」という、“皆そうなんだからあなたもそれを受け入れるべきだ”式の話が多くうんざりした。性や年齢で評価する世の中の方がおかしいと感じた。

仕事を得るには資格が一番と考え、公務員を辞めて1年目に自動車の免許を取った。¹⁹⁹¹ 2年目に宅地建物取引主任者資格を得た。¹⁹⁹² 3年目は行政書士試験に合格した。¹⁹⁹³ 4年目、社会保険労務士試験に合格した。もう私の力ではここまでだと思った。その間職を得たこともあったが何だかわけの分からない理由で辞めさせられ、2か月間落ち込んだ。次のところは2か月で自分から辞めた。八方手を尽くしたが自分の希望する職業も、資格を生かせる仕事もないことを実感し、夫と長女をW市に残して札幌市に出てきた。

子供3人と私との生活はとっても快適だ。希望する職も見つかった。縁あって“あごら”の会員にもなった。私は田舎特有の閉塞感から逃れたかったのかも知れない。先はどうなるか分からないという危うさを秘めてはいるが、今は仕事が面白い。いろいろな人と知り合いになれるのも楽しい。いきいきと生活できることのうれしさをかみしめている。
→3年働きあそぶ。 ……閑話休題……

私が公務員であったとき、仕事の内容とは関係なく年齢に応じて貰える給料に驚いたものである。できない人にはできそうな仕事しか回ってこない。傍目には温情が過ぎると感じられた。反面、責任のきつい幹部職員も同年齢の窓際族に比べ僅か数万円の差しかなく同情を禁じえなかった。

さて、民間に目を転じれば、三点セット（終身雇用、年功序列、企業内組合）の崩壊が見られる。終身雇用は一部の幹部職員のみとなり、他は自由契約に移行するだろうという意見もある。日本の雇用慣行は合理的でない面も多々あるが、労働を取り巻く急激な変化は日本の社会を何処に連れて行こうとしているのであろうか。

この表現はきつすぎると思う誰が評価めるかという問題もある。



今、原発を止めるために 女がやること

絶望から帰って来た

もう古いニュースになってしまったのかも知れないが、今年4月26日、青森県六ヶ所村に、高レベル廃棄物が返還された。日本からの原発のゴミがフランスで再処理され、フリトニウムを抽出したあとの「死の灰」になって帰って来たのである。6.180人の警備隊に見守られたキャニスターは、白い霧をもうもうと上げて世界最大の核燃サイドにゆくりゆくりとしたスピードで消えて行った。

今回の「死の灰」の中には、 Chernobyl事故で放出された460倍のセシウムが含まれている。又、これから30年間原発が稼働されたとすると、広島型原爆の120万発分の天文学的な量の死の灰を含む、高レベル廃棄物が発生する。原発を止めない限り、この天文学的な数字はどんどん積み重なっていく。しかし、原発に関して私たちにはマインドコントロールされているのではないかと思ってしまう。女たちが一ヶ月テントを張って阻止行動を「ウラン搬入」も六ヶ所では、今や日常茶飯の風景になってしまっている。こうして私たちには目の前を絶望が走っているのさえ見えなくなっていくのである。



北海道の泊原発から核のゴミが出てる！

北電は原発のハイキ物を7月～9月にかけて海外へ再処理のため搬出すると新聞発表した。しかし、その日時は公表しないという。

原発は木造とウソに囲められている。いったいゴミからフリトニウムを抽出してどうするのや？ フリトニウムが横行する社会というのは、私たちの生活が目に見えない形で「ひやかされいく社会」である。

道の情報公開の開示請求の手続きをとったく取ってきた。道と現地には数日前に安全地帯で知らせることがなってるので。

七・シテーから高レベル廃棄物を降ろされるのを胸かづけれる
思って見ていた。無力感か押しよせて来るのを感じながら。

都会で湯水のように使った電気のツケが六ヶ所の人々に押しつけられるのだ。北海道から核のゴミを、なんとしても出さない運動をしなくては、と思った。

ところか……



搬出阻るために共同行動を組むことになった。大川：希望公事で
あとか、しばらく活動家の男や労組の男たちと行動していくので
勝手がものすごく違う。「谷さんの気持ちは分かることは、今回も搬出
阻止は無理だけど、来年のチラシで「10周年のための一つのステ
ップにしよう」とか、「谷さんかそんなに頑張ることないんじや
ない、大きな組織に任せたら？ お金もないんだし……」

「1000円もする映画？ もっと安かったら労組からカバーしてくれる
けど。議会なんかじゃ配られる訳ないよ」etc……

今はどうか知らないか、山尾三省という詩人がいて、「反原発は
女のヒスナリーナ」と言った。今は、もうそのヒスナリーナを見あた
らないか……。男のヒスナリーカー兵器とつくり、戦争を起こすことを相
変わらず盛んである。

皮膚感覚で絶望を乗り切ろう。



原発からの廃棄物を持ち出さないために、「全国核のゴミストップ・キ
ンペーン」を呼びかけているアイleen・スマスさんと会った。彼女はフレ
トニウムがり帰って来た時も、高レベル廃棄物が帰って来た時も、体
調を崩した。病気は困るか…すごい感性だと思った。ほとんど見切りをつ
いている男たちが前で舟を弄る。海外にも、日本から生きていく意志を
伝えねば!』と言ってくれた。8月2日札幌で彼女の講演会を見る。

男たちよ、企業に魂を売らな、て!



6月29日 北電の社員を卒業会出席。会社のいいなりに嵐のよりお拍手と
ヤジを飛ばしていた男たちに、帰り際、うしろから「アンタたち会社に魂を売って
アトルニア政策にあがめて、衷心はどうある? 未来にツケを残してどうする?」
と大きな声で言った。男たちから声はなく月中が悲しそうだった。

Information



7/4

自由
学校
遊
=②

女性が主役!! むらづくり先進国 ラオス

講師 ケオナラ・スリヤデット、松本千恵。

かでる2.7 18:30開演。受講料1,000(前売800円)

連絡 613-3396

むらづくりの主役女性達の視点と役割とは?
女性同盟を中心とした男社会では発想できない
女の自主的な地域開発と視点、

7/6

松井やより講演会(北京世界女性会議へ向けて?)

北海道教育会館(ホテルエニオン)大樹 連絡 622-6404

参加料1,000円 14:00~17時 (女のスペース・みん)

7/21

映画「渡り川」

四万十川の中流域にある街。その谷には多くの朝鮮人
によって墾かれた。その事実を知った高校生は...

中央区民センター

韓国、朝鮮と日本の若者たちのドキュメント。

連絡 231-4157

7/29. 30

第40回「北海道母と女性教職員のつどい」

講師 加口納 寛子代以 「平年〇で何だ?」

札幌市教育文化会館 12:00 受付 13:00~15:30

連絡 561-8655 (北海道教育会館内)

8/2

水俣ースリーマイル反対集会

アイleen・スピスさん講演集会(全国核のゴミストップキャンペーン)

ユージン・スピスと「水俣」の写真に取り組み、その後スリーマイル島の事故後
現地に住み住民調査をする。湾岸戦争、在日韓国、熱帯雨林、朝鮮人
の人権問題から、核の問題まで国際的規模で語る。

札幌市民会館 午後6時 連絡 664-0632 (谷)

あと書き

初めて北電の株主総会に出席した。彼らは自分人生輝いてる(会社と
心中満足している)からそこには裏目立つ違つといふと実感した。